ご報告とお礼　　クラウドファンディングによる 絵本「すぺしゃるなどんぐり」プロジェクト

2019 年２月９日にスタートした当プロジェクトは 159 名の皆様からご支援をいただき、同年３月 31 日で終了いたしました。このように多くの皆様からのご支援をいただけましたことは、大変有難く、心から厚くお礼申し上げます。

完成した絵本は７月から、まずはご寄付をいただいた方へのリターン品として発送を開始、その後、福岡市保育協会加盟園の全園、福岡市私立幼稚園連盟加盟園の全園、福岡市と県の公立図書館、福岡市立こども病院、福岡大学病院、福岡市男女共同参画推進センターアミカス、子どもの村福岡、以下はこれまでご縁のあった市内特別支援学校、市内特別支援学級、生活介護事業所、放課後等デイサービス、児童発達支援センター、公民館、そして行政や政治家の方々にも贈らせていただきました。

西日本新聞、毎日新聞でも取り上げていただき、またインターネットを通じてお知りになった個人の方や大阪の特別支援学校の先生、大学で保育士の養成に携わっている先生などからのリクエストにもお答えしました。

障がい者より良い暮らしネットは「この社会にはいろんな人が生きていて誰もが大切にされる社会、子どものときから障がいのあるなしにかかわらず、身近な場所で一緒に暮らせる社会」になってほしいという願いを込めて活動しています。

今回の絵本プロジェクトはその想いを、多くの方にお伝えできたと考えています。

皆様、本当に有難うございました。

「障害の壁」絵本でなくそう
制作資金をネットで募集

寄付で絵本製作

★収支報告　　単位：円

収入			支出		
クラウドファンディング総額		1,585,851	campfire 手数料	184,520	WEB 入金分の 14%
内訳	インターネットを通じて 156 名	1,318,000	絵本・DVD 制作費	1,166,721	絵本 1,000 冊、DVD コピー代 DVD ナレーション費用等
内訳	期間終了後当会を通じて３名	43,000	返礼品製作費	119,820	T シャツ、ドーナツ等
内訳	白石統人氏寄付	112,691	郵送費	111,120	
内訳	当会運営費より	112,160	雑費	3,670	振込手数料
収入総額		1,585,851	支出総額	1,585,851	

今回は絵本製作のために、プロたちによる「すぺしゃるなチーム」白石統人（つぐと）さん（企画・プロデュース）、川之上智子さん（文）、小田幸枝さん（絵）たちがこの企画に賛同し、腕前を駆使し、成功に導いてくださいました。このプロジェクトへの想いをご寄稿いただきました。感謝を込めて掲載します。

★プロデュース・企画／白石統人・株式会社キャラバン

認定 NPO 法人「障がい者より良い暮らしネット」広報担当の白石統人と申します。
普段はテレビ CM など映像制作の仕事をしています。
1980 年に福岡県宗像市に生まれて、18 歳まで福岡で暮らし、大学時代から東京で映像制作をしていました。
25 歳になった時に福岡に帰ってきました。
きっかけは、父の肝臓がんによる死でした。
色々な方のサポートのおかげで、最後の１ヵ月を一緒に過ごせたのですが、そんな父が私に残した言葉は、
「文化、教育、福祉はすぐに結果が出ない。
　だからこそ、継続して支援をしないといけない。」と。
その考え方をベースとしながら、映像制作の技術を活かして、
色々な社会団体の情報発信をお手伝いしてきました。
そんな中、30 歳の時（2010 年）に、
認定ＮＰＯ法人「障がい者より良い暮らしネット」と出会いました。

３歳当時の私と生前の父

「より良い暮らし」はこんな団体

初めて「障がい者より良い暮らしネット」を知った時、名前のインパクトはあるのですが、何をやっている団体なのか良く分かりませんでした。よくよく話を聞いてみると、
「障がい者の親御さん達が、自分たちの死後、その子どもたちが、安心して暮らせるような社会になって欲しい」との想いで立ち上げられた手作りの団体とのこと。
運営されている方々は、障がいを持ったお子様を支えながら頑張られている、本当に普通のお母さん、お父さん達でした。

８年間の活動を通じて感じたこと

８年間、「障がい者より良い暮らしネット」の広報をして感じたことは、想いを込めて広報活動すればするほど、専門的かつ内側に向かった発信になってしまい、一般の方との距離が遠ざかっていくというジレンマ。
一般の方に知って頂いてこそ、新たな協力者が現れたり、新しい波が生まれるというはずなのに。
　閉鎖的な方向ではなく開放的かつ未来の方向に舵をきる、
そんなことができたらな、と常々かんがえてきました。

一般の方に「障がい者より良い暮らしネット」の活動を知って頂くために、何かいい方法はないか。そこで考えたのが、誰もが親しめる「絵本」というコンテンツです。この絵本を通して、

全国の皆さん、特にこれからの未来を背負う子ども達や、幼稚園・学校の先生、社会を変える力を持っている企業家、政治家の方に、活動を知って頂きたいと考えました。

「障がい者」と「健常者」。

少し離れた世界の住人として語られる二者を混ぜこぜにしたい！

ちょっとだけそのお手伝いをしたくて、このプロジェクトを立ち上げました。

<u>なぜ絵本なのか</u>

まず考えたことは、誰がみても分かりやすく、見ていて楽しいもの。

その分かりやすさ、楽しさが、

「障がい者」と「健常者」の垣根を低くしてくれるんじゃないか、と。

絵本なら、子どもから大人まで楽しめます。

絵本なら、色々な人が簡単に読むことができます。

もしかしたら、お母さんが子どもに読んであげるかもしれない。

もしかしたら、誰かが大切な人にプレゼントしてくれるかもしれない。

なんて、ステキなことを夢見て、絵本という形を選択しました。

<u>すぺしゃるなチームのみんな</u>

「この絵本を作ろう！」と決心したとき、もう一つ決めたことがあります。

「人の善意だけに頼るような、拙いものは出さない！」と。

お金を出して頂くからには、読んでよかった、他の人にも薦めたい、

と心から思って頂ける、最高の一冊に仕上げたいと考えました。

しかしながら、これは僕一人では達成できません。

そこで長らく一緒に広告の仕事を頑張ってきたスペシャルな皆さんの力を借りることにしました。

みなさん、素晴らしい実績を持たれた方たちで、この絵本のクオリティを２段も３段も上げてくれることは間違いないのですが、何よりも嬉しかったのは、企画の相談をしたときに、みんな即答で協力を約束してくれたこと。快くこのプロジェクトに賛同してくださったのです！

この場を借りて、改めて感謝の気持ちを伝えさせてください。

「本当にありがとうございました！みんなの力でステキなものができましたよ！」

また、ちょっと手前みそになりますが、「障がい者より良い暮らしネット」の皆さんもお疲れさまでした。普段の活動で忙しい中、目に見えないところで沢山がんばって頂いたと思います。本当にありがとうございました！

★デザイン・装丁／青木春美（株式会社 ANALOGUE）

デザイナー。旅、音、本、器、絵　どれもきちんとしていない曖昧なものが好き。
目下の願いは「島に行きたい・・・」

★印刷／上薗拓郎（ダイヤモンド秀巧社印刷株式会社 ）

プリンティングディレクター兼プロデューサー。右投げ左打ち 。

★アニメーション／部谷文香（株式会社キャラバン）

アニメーター・映像ディレクター。アナログ感のあるアニメーション LOVE。
ふくふくした動物も好き。

★文／川之上智子

コピーライター・CM プランナーとして活躍。作詞や映画の脚本も手がける。

文を書いた川之上智子さん

■ すぺしゃるなどんぐり君の名前には「ご両親やご家族にとってかけがえのない存在」という思いを込めています。友達に語るような、親しみのある文章を心がけました。
どんぐり君は苦手なこともあれば得意なこともあります。そして一人で生きていくことが困難です。読んでくれる方に、どんぐり君との同じ部分と違う部分を感じていただけたら。そこから考えるきっかけが生まれれば。そう願いながら書かせていただきました。
後半、どんぐり君は家族以外の葉っぱさんたちに助けられます。どんぐり君はきっと、ごきげんダンスで彼らに元気をあげてゆくのだと思います。どんぐり君だけでなく、葉っぱさんたちもハッピー。そんな明日へ繋がる一冊になれるといいなと思っています。

■近況
脚本を担当した映画『テロルンとルンルン』が劇場公開中。引きこもりの青年と聴覚に障害のある少女が綴る青春劇。福岡は 10/30(金)よりキノシネマ天神にて公開。

★絵／小田幸枝（coccara）
イラストレーター。子育てをしながらフリーランスで活動。
ミッションは「子どもに関わる問題をデザインやイラストで解決していく。」

絵を描いた小田幸枝さん

■　イラスト、ロゴ、リーフレット、デザインキャラクター制作などを、小２の男子と１歳の女子の子育てをしながら約 15 年ほどやっています。絵本は趣味で作ることはありましたが、たくさんの人に読んでもらうのは今回が初めてでした。

私の親類に障がいのある人がいて、旅行や、日常のちょっとした変化の時にも家族が大変そうだなぁ、と感じたり、親亡き後の心配をする親御さんの姿を見るということがありました。

そんなとき白石さんからボランティアで絵本を書いて、と依頼があり、瞬間にどんぐり君のキャラクターが浮かんできました。川之上さんの書かれたストーリーに感動して、どんどんイメージが湧いてきました。読む人が重くなりすぎずに、大丈夫という安心感、温かい気持ちになるようなものに仕上げたいとも思いました。

ストーリーの中には、パパやママがお空に行ってしまうというような、ちょっと悲しい場面もありますが、悲しくなりすぎないように、絵本を見る人が楽しい気持ちになるような、そんな思いを込めながら絵を描きました。

これからも私のイラストが、見る人の心をリラックスさせたり、ほっとする、というような安心感を与える仕事、支援できるような仕事をしていきたいと思っています。

小田さんの作品
左：絵本「僕のなりたいもの」
右：佐賀市「おへそこども園」の各部屋ごとのサイン